SANSUI

Bluetooth機能搭載レコードプレーヤー SLP-5000BT

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保管してください。

もくじ

安全上のご注意……P2～P3
ご使用になる前に……P4～P5
各部の名称とはたらき……P6～P7
正しい使いかた……P8～P18
　レコードを聴く……P10～P13
　USB メモリーの MP3 を聴く……P14
　Bluetooth接続して外部プレーヤーを聴く……P15
　AUX 接続して外部プレーヤーを聴く……P16
　ヘッドホンで聴く……P16～P17
　外部機器に出力する……P17
　レコードの音をUSBメモリーに録音する……P18
お手入れのしかた……P19～P22
修理・サービスを依頼する前に……P23～P24
主な仕様……P25
アフターサービスについて……裏表紙
保証書……裏表紙

株式会社ドウシシャ

1A17A

安全上のご注意

●ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 （物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。）

図記号の意味と例

	⃠は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⃠の中や近くに絵や文章で示しています。（左図の場合は、「分解禁止」を示します。）
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。（左図の場合は、「AC アダプターをコンセントから抜くこと」を示します。）

⚠警告

禁止	**交流100V以外では使用しない。** 電圧の違うところ、自動車・船舶などの直流電源には接続しないでください。火災・感電の原因になります。	禁止	**強い衝撃を与えたり、本体を落下させたりしない。** 衝撃を与えたときは、すぐにACアダプターをコンセントから抜いて、点検修理を依頼ください。使用すると火災・感電・故障の原因になります。	指示	**放熱を妨げない場所に設置する。** 他の機器や壁などから十分な間隔をとって設置してください。内部に熱がこもり、故障や火災の原因になります。
	海外で使用しない。 本製品は日本国内専用です。		**雷が鳴り始めたら、本機やACアダプターに触れない。** 感電の危険があります。	プラグを抜く	**使用しないときは、必ずACアダプターをコンセントから抜く。** 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		**温度の高いところ、水蒸気が当たったり湿度が高いところ、直射日光が当たるところ、屋外、振動の多いところに設置しない。** 火災・感電・故障の原因になります。		**お手入れの際は、安全のためACアダプターをコンセントから抜く。** 感電・火災・けがの原因になることがあります。
	電源コードやACアダプター、DCプラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		**本機に対してスプレー式のエアダスターを使用しない。** 本機の内部にガスがたまった場合、引火して爆発する原因になります。	分解禁止	**分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。** 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシシャ福井A&Vサービスセンター（裏表紙参照）にご相談ください。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。	使用禁止	**異常時（こげ臭い、発煙など）はACアダプターを抜き、使用を中止する。** 火災・感電の原因になります。	ぬれ手禁止	**ぬれた手で、ACアダプター、DCプラグを抜き差ししない。** 感電の原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	指示	**ACアダプターはコンセントの奥までしっかり差し込む。** 感電・ショート・発火の原因になります。	水ぬれ禁止	**水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。** ショート・感電の原因になります。
	ACアダプターを乳幼児の手の届くところに置かない。 コードが誤って首に巻き付いたりして事故の原因になることがあります。		**ACアダプターの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合は拭き取る。** ホコリが付着したままACアダプターを差し込むと、ショート・火災の原因になります。		

⚠注意

禁止	**次のようなところでは使わない。** **●ガスコンロなど炎の近く** **●引火性のガスがあるところ** **●雨や水しぶきがかかるところ** **●ホコリの多いところ** 変色・変形・火災・感電の原因になることがあります。	禁止	**お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。** 変色・変形・感電・故障の原因になります。	指示	**ACアダプターを抜くときは電源コードを持たずに必ずACアダプターを持って引き抜く。** 感電・ショート・電源コードの断線の原因になることがあります。
	窓をしめ切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。 キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災や感電の原因になります。		**付属のACアダプター以外使用しない。** 火災・感電・故障の原因になることがあります。別の機器に使用することもしないでください。		**音量に注意する。** 使用前には音量を最小にするようにし、使用中も音量を大きくしすぎないように注意してください。長時間、耳を刺激する大きな音量で聴き続けると聴力に悪い影響を与えます。
	不安定な場所で使わない。 転倒したり落下して、けが・故障の原因になることがあります。		**上にものをのせたりしない。** 内部に入ったとき、感電や火災・故障の原因になります。		**接続に注意する。** 本機からの出力を接続によっては接続先の機器を傷めたりすることがあります。正しい接続をしてください。

ご使用になる前に

レコードの取り扱いについて

使用上の注意

- **レコードに重いものをのせたり、何枚も積み重ねたりしない。ななめにたてかけたままにしない。**
  そりや破損、変形の原因になります。
- **ひびやそりのあるレコードは絶対に使わない。**
  ひび割れや変形したレコード、またはテープや接着剤で補修したレコードなどは危険です。針などほかの部分の破損にもつながりますので、絶対に使用しないでください。
- **再生を終えたレコードは、必ずケースに入れて保管する。**
  そりやキズの原因になります。
- **特殊形状のレコードは、再生しない。**
  機器の故障の原因となります。
- **スクラッチのような通常とは違う再生方法をしない。**
  本機は構造上（ベルトドライブ）スクラッチ再生など対応せず、針もスクラッチ再生には対応しませんので、無理に行なおうとすると故障の原因になります。
- **直射日光や高温多湿な場所には置かない、保管しない。**
  そりや変形の原因になります。

レコードの持ちかた

- **レコードを持つときは、音溝部分に手を触れないように外周部分のみ、またはレーベル部分と外周部分を支えて持つようにする。**
  音溝部分にほこりや指紋が付くと、異音発生の原因になります。

レコードお手入れの注意

- **レコードのお手入れにはレコード専用のクリーナー、クリーナー液を使う。**
  音溝部分にホコリや指紋が付くと、異音発生の原因になります。市販のレコード専用のクリーナーでお手入れをしてください。
- **レコードクリーナーを使用するときは、音溝に沿って円を描くようにふき取る。**

音溝に沿って円を描くように

USBメモリー・MP3 について

USBメモリー

- FAT32 フォーマット。
- USB2.0対応
  本機は、USBマスストレージクラスデバイスにのみ対応しています。お使いのUSB機器がUSBマスストレージクラスであるかは、直接USB機器の発売元にお問い合わせください。
  ※本説明書では接続できるUSB機器を「USBメモリー」と記載しています。
- USBハブを介してUSB機器を使うことはできません。
- 本機は本機で再生したレコード音源を録音することができます。
- 本機では、USBメモリー内のファイルを削除したり、移動することはできません。
- 本機はUSBメモリーに記録されたMP3ファイルを再生することができます。
- DRM(著作権保護されたファイル)には対応していません。
- 機器の状態によっては正常に動作しないことがあります。

MP3

- 正式名称をMPEG Audio Layer 3という音声圧縮の規格。
- MP3データの認識はファイル拡張子「.mp3」で行ないます。ファイル名には必ず拡張子「.mp3」を付けてください。拡張子「.mp3」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」を付けていてもMP3データ形式でないファイルは再生できません。

MP3再生可能ファイル

- ビットレート 32 ～ 320 kbps
- サンプリング周波数32kHz／44.1kHz／48kHz
- 999以上のファイルまたは99以上のフォルダーが記録されたUSBメモリーは、正常に再生できないことがあります。
- 可変ビットレートで記録されたファイルは、正常に再生できないことがあります。
- MP3ファイルの状態によっては、本機では再生できなかったり、音が途切れることがあります。

本機でのMP3録音概要

- ビットレート 160 kbps
- サンプリング周波数48kHz
- USBメモリー上に「RECORD」フォルダを作成し、録音ごとにファイル名を「REC0001」から順番に付けていきます。

お客様が録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

Bluetoothについて

Bluetooth(ブルートゥース)

本機はBluetoothの無線技術･ワイヤレスシステムを搭載しています。対応するプレーヤー、携帯電話などの音楽をワイヤレスで聴くことができます。

電波に関する注意事項

本機の使用周波数帯では、産業･科学･医療用機器などのほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)などが運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万が一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止してください。

通信について

- Bluetooth対応のマウスなどのパソコン関連機器と、ヘッドホンなど音楽機器を同時に使用すると、音が途切れたりすることがあります。
- 本機などのBluetooth機器は無線LAN機器(IEEE802.11b/g/n)と同じ周波数帯(2.4GHz)を使用するため、近くで使用すると電波障害を互いに発生させて、通信速度低下や接続不能になることがあります。このような場合は、使用周波数を変更するか、できるだけ離して(10m程度)使用します。
- 本機はすべてのBluetooth機器と接続を保証するものではありません。また接続するまで時間がかかるものがあります。
- Bluetooth機器どうしの接続で、対応する規格、周波数帯域、プロファイルの種類などによって接続できないことがあります。

安全にご使用いただくために

Bluetooth機器が発生する電波は、電子医療機器などに影響を与えることがあります。場合によっては事故をひきおこすこともありますので、以下のようなところでは持ち込まない、または電源を入れないようにしてください。

- 病院など医療機関、電車・航空機
- 自動ドアや火災報知機の周辺
- 心臓ペースメーカー、医療用電子機器の近く

Bluetooth機能を搭載したセットを改造して使用したときは電波法に抵触します

本機は電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等を受けており、その証として「技適マーク(〒)」が本機の銘版シールに表示されています。改造すると、技術基準適合証明が無効となります。
無効状態で使用すると、電波法に抵触しますので絶対に改造しないようにお願いします。

Bluetooth機能は日本国内で使用してください

本機のBluetooth機能は、日本国内での無線規格に準拠し認証を取得しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。

Bluetooth部　仕様	
適合規格	Bluetooth Ver.3.0
通信出力	Class2
使用周波数帯域	2.4GHz 帯 (2.402 ～ 2.480GHz)
変調方式	G FSK.
プロファイル	A2DP
対応コーデック	SBC
SCMS-T	非対応
通信距離 *	(見通し) 約 10 m *
同時接続台数	1 台
記憶可能ペアリング台数	1 台

* 通信距離は目安です。周囲の環境により距離が変わることがあります。

お使いのBluetooth機器によっては接続できないことがあります。
詳しくはお使いのBluetooth機器の説明書をご確認ください。

免責事項について

お客様、または第三者が、この製品の誤った取扱･故障･その他の不都合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

製品の故障･誤動作または不都合によるレコード･USBメモリー等への記録された内容の損害及び録音･再生など、お客様または第三者が製品利用の機会をのがしたために発生した損害等、付随的損害の補償については、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

各部の名称とはたらき

本体　　前面

①	ダストカバー	ホコリの侵入を防ぎます。
②	ターンテーブルシート	ターンテーブルの上に取り付け、この上にレコードをのせます。
③	ターンテーブル	レコードを回転させます。
④	ストロボスコープライト	ここから発射される赤い光とターンテーブル側面のピッチマークの静止状態でターンテーブルの回転精度を確認します。
⑤	操作部	本機の操作や、USBメモリーの取り付けをします（詳細は次ページ参照）。
⑥	スピンドル	レコードを取り付けます EP盤はEP盤アダプターをここに取り付けます。
⑦	カートリッジターゲットライト	レコード再生時に点灯します。
⑧	スピーカー	操作部で選択した音をステレオで出力します。
⑨	カートリッジ	レコード針が取り付けられています。
⑩	トーンアーム	レコード針を音溝に合わせてレコード上で移動します。
⑪	アームリフターレバー	トーンアームを上下させます。
⑫	ピッチコントロールつまみ	ターンテーブルの回転スピードを調節します。
⑬	音量つまみ	スピーカーの音量を調節します。
⑭	回転数セレクター	レコードの設定により33⅓回転･45回転を切り換えます。
⑮	EP 盤アダプター	EP盤と呼ばれる7インチシングル盤のうちセンターの穴が大きい、ドーナツ盤をスピンドルに取り付けるときに使用します。

梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

本体	1 個	EP 盤アダプター（本体に取付済）	1 個
ターンテーブル（本体に取付済）	1 本	レコード針・カバー（本体に取付済）	1 個
ターンテーブルシート（本体に取付済）	1 枚	AC アダプター	1 本
ドライブベルト（本体に取付済）	1 本	取扱説明書（保証書含む）	1 冊

ACアダプター

裏面

端子部

ヘッドホン端子
外部入力端子
外部出力端子
DCジャック
付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

⚠注意	**本機の外部出力端子の出力をアンプなどのレコードプレーヤー用のPHONO端子に接続しない。** 本機からの出力は増幅したライン出力のため、絶対にアンプなどのPHONO端子に接続せず、ライン入力端子に接続してください。誤った接続をした場合、アンプなど接続機器の故障の原因となります。

操作部

	ランプ		
①	**ON**	電源ランプ	電源の状態を表示します
②	**USB**	USBランプ	USBモード、USBアクセスを表示します
③	**PHONO/AUX**	PHONO/AUXランプ	レコード再生／外部入力モードを表示します
④	**BT**	BTランプ	Bluetooth接続状態を表示します
	ボタン		
1	**POWER**	POWER ボタン	電源の入切をします
2	**USB-MP3**	USB-MP3ボタン	USB メモリーの再生をします
3	**PHONO/AUX**	PHONO/AUXボタン	レコード再生／外部入力の切り換えをします
4	**BT**	BTボタン	Bluetooth 再生／接続をします
5	**PHONO-REC**	PHONO-RECボタン	レコードを USB メモリーに録音します
6	**|◀◀**	早戻しボタン	USBメモリーの曲再生をコントロールします。
7	**▶||**	再生・一時停止ボタン	
8	**▶▶|**	早送りボタン	

正しい使いかた

設置

本体を水平な安定したところに設置してください。

- 特に外部からの振動の影響を受けない、安定した場所に設置してください。
  レコードプレーヤーは非常に繊細な機器です。外部からの振動の影響で正しく再生できないことがあります。
- 本体の脚部（インシュレーター部分）４つをすべて接地させてください。

輸送用固定ネジをしめる

設置後、お使いになる前に、輸送用ネジを時計回りに止まるまで回してください。

- 輸送するときは、輸送用固定ネジを反時計回りに止まるまで回してください。

ドライブベルトを取り付ける

1. ターンテーブルの円周にある2つの大きな穴のどちらかを本体右上のモーターのプーリーのある場所に合わせる
2. ターンテーブルの裏の内側円周部にあるドライブベルトをモーターのプーリーにかける
   ドライブベルトがつかみづらい場合は「お手入れのしかた」（→ 20 ページ）もお読みください。
3. ターンテーブルを時計回りに10回ほど回す
   ドライブベルトがモーターのプーリーからはずれたり、よじれたりしていないか確認してください。

AC アダプターの取り付け

1. 本体背面にあるDCジャックに付属の専用ACアダプターのDCプラグを取り付ける

⚠警告	• 付属の AC アダプター以外使用しない。 • 電源コードを束ねたまま使用しない。 熱を持つことがあり危険です。 • 本体背面のDCジャックを取り付けたあとにACアダプターをコンセントに差し込む。 先にACアダプターをコンセントに差し込むことはしないでください。

※以下、特別なイラスト以外、ダストカバーのイラストは省略します

基本操作

1. ACアダプターをコンセントに差し込む

音量つまみの状態を確認し、音量を最小に設定しておいてください。

2. 操作パネルの POWER ボタンを押して電源を入れる

POWER ボタンを押すと、電源が入り、PHONO モードになります。
電源ランプと PHONO/AUX ランプ（緑）が点灯します。

3. 使用するモードに対応するボタンを押す

使用するモードに対応するボタンを押して、再生するモードを選択します。

USB-MP3 ボタン	USBモードへ切り換え（USBメモリーの再生）
USBランプ	・USBモード: 赤色点灯
PHONO/AUX ボタン	PHONOモード（レコード再生）またはAUXモード（外部入力再生）へ切り換え
PHONO/AUX ランプ	・PHONOモード: 緑色点灯 ・AUXモード: 赤色点灯
BT ボタン	Bluetoothモード（接続･再生）へ切り換え
BTランプ	・点滅: 未接続･接続待機 ・点灯: 接続･再生

4. 音量つまみを回して音量を調節する

右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量は小さくなります。
※電源を入切するときは、音量を最小にするようにしてください。

電源を切る

1. 操作パネルのPOWERボタンを押して電源を切状態にする。

POWER ボタンを押すと、すべてのランプが消灯し、切（スタンバイ）状態になります。

⚠警告	**使用後は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。** 火災・故障の原因になります。

音量つまみ

操作パネル

正しい使いかた（つづき）

レコードを聴く

通常の操作

使用前に、輸送用固定ネジを時計まわり一杯に回しておく必要があります（「輸送用固定ネジをしめる」→8ページ）。

1. PHONO/AUXボタンを押してPHONOモードに切り換える

カートリッジターゲットライト（右側）とストロボスコープライト（左側・赤い光）が点灯します。

• PHONO/AUX ランプが緑色に点灯します。

2. レコードをターンテーブルにのせる

ドーナツ盤のときは、付属の EP 盤アダプターをスピンドルに取り付けてください。

※ターンテーブルにのせるのは、1 枚だけにしてください。

※「レコードの取り扱いについて」（→ 4 ページ）も一読ください。

3. 再生するレコードの回転数に合わせて、回転数セレクターを切り換える

レコードのレーベル面に記載されている回転数を確認して、回転数セレクターを切り換えてください。

• 45回転と33（⅓）回転に切り換えることができます。

• 再生スピードがおかしいと感じられたら、「回転数を微調節する（ピッチコントロール機能）」（→ 13 ページ）で調節してください。

4. レコード針部分にある、カバーを取りはずす

アームレストに固定されている状態でカートリッジからカバー（白色）を取りはずしてください。

5. アームレストにある固定具をはずす

トーンアームをアームレストに固定している固定具を右側に倒してはずしてください。

6. アームリフターレバーを操作して、トーンアームを持ち上げる

手前に倒れているアームリフターレバーを操作するとトーンアームが持ち上がります（針が浮いた状態になります）。

7. カートリッジ（針）の指かけを持ってレコードの外周の端、もしくは再生させたい位置までトーンアームを移動させる

トーンアームを内側に移動させると、ターンテーブルが回り始めます。

※レコードのレーベルのところまでトーンアームを移動させると、トーンアームが自動的に戻る機能（オートリターン機能）が働くためご注意ください。

8. アームリフターレバーを静かに手前に倒してカートリッジ（針）をレコード上にのせる

カートリッジ（針）がレコードの音溝にのると、再生が開始されます。

※カートリッジ（針）部分から音が聴こえてきますが、特性であり、不良ではありません。

9. 音量つまみを回して音量を調節する

※レコード再生時に音量を大きくした場合にハウリング現象が発生する場合があります。そのときは音量を下げてお楽しみください。

音量つまみ

10. 再生を途中で止めるには、アームリフターレバーの操作でカートリッジ（針）を上げる

アームリフターレバーでトーンアームを上げ、手動でカートリッジ（針）の指かけを持ってトーンアームをアームレストまで戻し、アームリフターレバーでトーンアームを下げてください。

⚠注意	• **アームリフターレバーの操作は静かにゆっくりと行なう。** 荒く操作するとカートリッジ（針）が飛び上がり、反動で針やレコードを傷つける原因になります。 • **レコード再生中、アームリフターレバーを使用しないでトーンアームを持ち上げない。** レコードにキズがつく原因になります。

▶▶つぎのページにつづく▶▶

レコードを聴く（つづき）

11. レコードの最後まで再生されると、自動的にトーンアームはアームレストまで戻る（オートリターン機能）

ターンテーブルは自動的に停止します。

- 再生するレコードによっては正しくオートリターン機能が働かない場合があります。その場合はアームリフターレバーを操作して手動でトーンアームを元の位置に戻してください。

トーンアームをアームレストに戻すとターンテーブルの回転が止まります。

12. レコードを聴き終えたら操作パネルのPOWERボタンを押して電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜く

電源ランプ、PHONO/AUX ランプが消灯します。

※電源を切る前に音量つまみを左に回して音量を最小にしておいてください。

⚠注意	• **ダストカバーを開いたままにしない。** • **レコードを取り付けたままにしない。** 本体、レコードの大敵であるホコリが付着する原因になります。 レコードを聴き終えたあとは、ジャケットに戻してください。

⚠警告	**使用後は必ず電源を切り、AC アダプターをコンセントから抜く。** 火災・故障の原因になります。

音量つまみ

回転数を微調節する（ピッチコントロール機能）

レコードは決められた正しい回転数（回転スピード）で再生をする必要があります。しかしターンテーブルの回転に使用しているドライブベルトの劣化や室温や湿度の影響等で微妙に回転数が変化することがあります。
本機のピッチコントロール機能により正しい回転数（回転スピード）で音楽を楽しむことができます。

	回転数
A	45回転
B	33（⅓）回転
※下２段は使用しません	

1. レコードを聴く「通常の操作」に従ってレコードを聴く準備をして、回転数セレクターを切り換える

2. アームレストにある固定具をはずしアームリフターレバーを立てて、トーンアームを動かしてターンテーブルを回転させる

3. 本体向かって左側のストロボスコープライトの出す赤色の光の先、回転数確認用ピッチマークを確認する

ターンテーブルの円周に刻まれた回転数確認用ピッチマークで確認します。

4. 使用する回転数のピッチマークが止まって見えるように、ピッチコントロールつまみを左右に回して調節する

ストロボスコープライトの発する赤い光の先の回転数確認用ピッチマークが止まって見えるように調節してください。
ピッチマークが右に流れるときは左へ回し、ピッチマークが左に流れるときは右へ回してください。

⚠注意	**正確なピッチコントロールは、毎回行なうようにする。** 室温や湿度などから変化しますので、正確な回転数が必要なときは、ピッチコントロールを毎回行なうようにしてください。

ピッチコントロールつまみ

USBメモリーのMP3を聴く

本機では USB メモリーに記録された MP3 を聴くことができます。

※本機の USB 端子でスマートフォンや携帯電話の充電はできません。

1. 操作部のUSB-MP3ボタンを押してUSBモードに切り換える

USB ランプが赤く点灯します。

2. 操作部上部にあるUSB端子にUSBメモリーを取り付ける

自動的にMP3の再生が開始されます。再生可能なファイルフォーマットについては「USBメモリー・MP3 について」（→4ページ）をお読みください。

⚠注意	• **USB ランプ点灯中に USB メモリーを取りはずさない。** データ破損の原因になります。 • **取り付ける USB メモリーの大きさに気を付ける。** 取り付ける USB メモリーの大きさによっては、ダストカバーが閉まらないことがあります。無理に閉めようとした場合、USB メモリー・本機の USB 端子を破損させる原因になります。

- 接続するUSBメモリーによっては認識されるまでに時間がかかることがあります。
- 認識できるフォルダ数は最大99、ファイル数は最大999です。またひとつのフォルダで認識できるファイル数は最大99です。

3. 操作部の⏮・⏯・⏭ボタンで曲の再生操作をする

- 本機の MP3 再生機能にはフォルダ選択機能はありません。
- USBメモリーに記録された順に再生されます。

4. MP3を聴き終えたら、POWERボタンで電源を切るか、ほかのモード（PHONO/AUX･BT）に切り換えてからUSBメモリーを取りはずす

Bluetooth接続して外部プレーヤーを聴く

本機にはBluetooth機能が搭載されており、スマートフォンや音楽プレーヤーの音楽を本機のステレオスピーカーで聴くことができます。

※Bluetooth 機能について詳しくは「Bluetooth について」（→ 5 ページ）もお読みください。

《初めて使用するとき》

1. 操作部のBTボタンを押してBluetoothモードに切り換える

BT ランプが速く点滅します。

2. 接続したい外部機器のBluetooth接続設定画面で「SLP-5000BT」を選択する

接続が成功すると BT ランプが点灯します。

※PIN コードの入力を求められたときは、4 桁の数字「0000」を入力してください。

3. 外部機器を操作して再生を開始する

外部機器の音量を調節してください。

4. 聴き終えたら、外部機器側から接続を解除する

外部機器の Bluetooth 設定から接続を解除してください。

詳しくはご使用の外部接続機器の取扱説明書をご確認ください。

《2度目以降使用するとき》

5. 一度接続すると次回以降自動で接続される

本機と接続したことのある外部機器は次回から自動的に接続されます。

再接続されない場合は、上記手順に従って再度接続してください。

本機は一度に1台の外部機器としかBluetooth接続できません。他の外部機器を接続したい場合は現在接続されている外部機器を切断する必要があります。

正しい使いかた（つづき）

AUX接続して外部プレーヤーを聴く

本機には外部入力端子 (AUX) が搭載されており、本機のスピーカーで外部プレーヤーの音を楽しむことができます。

1. PHONO/AUXボタンを押してAUXモードに切り換える

PHONO/AUX ランプが赤色に点灯します。

- PHONO/AUX ボタンを押すたびに PHONO モード（緑色点灯）・AUX モード（赤色点灯）が切り換わります。

2. 外部機器の音声出力と本機の外部入力端子(AUX)を適合した接続ケーブルで接続する

- 接続ケーブルは付属されていません。接続する外部機器に合った市販品をご使用ください。
- 本機の外部入力端子 (AUX) はφ 3.5 mm（ステレオミニプラグ）です。

3. 外部機器を再生する

音量が小さいときは、外部機器の音声出力レベルを調節してください。

ヘッドホンで聴く

1. 音量つまみを回して音量を最小に設定する

2. ヘッドホン端子にヘッドホンを接続する

ヘッドホン端子にヘッドホンなどを接続すると本体スピーカーから音が出なくなります。

- 本機のヘッドホン端子はφ 3.5 mm（ステレオミニプラグ（3極））です。

3. 音量つまみを回して音量を調節する

⚠注意	• **ヘッドホンの取り付け取りはずしのときの音量に注意する。** スピーカーの影響などを考慮して、音量を最小にしてからヘッドホン端子の取り付け、取りはずしを行なってください。 • **ヘッドホンを使って大音量で長時間聴くことはしない。** 聴力に影響をおよぼすことがあります。 • **ヘッドホンの連続使用でかゆみやかぶれなどの症状が発生したら、ヘッドホンの使用を中止する。** 使用を中止し、専門医にご相談ください。

音量つまみ

外部機器に出力する

本機には外部出力端子が搭載されており、本機のレコードの音や MP3 メモリーの音などを他の機器で楽しむことができます。

1. 本機の外部出力端子(LINE OUT)と外部機器の音声入力を適合した接続ケーブルで接続する

- 接続ケーブルは付属されていません。接続する外部機器に合った市販品をご使用ください。
- 本機の外部出力端子 (LINE OUT) は RCA ピンプラグです。

2. 本機を再生する

外部出力端子（LINE OUT）接続中でも、本機のスピーカーから音声は出ますので、音量つまみを回して音量を最小にしてください。

⚠注意	**本機の外部出力端子の出力をアンプなどのレコードプレーヤー用の PHONO 端子に接続しない。** 本機からの出力は増幅したライン出力のため、絶対にアンプなどの PHONO 端子に接続せず、ライン入力端子に接続してください。誤った接続をした場合、アンプなど接続機器の故障の原因となります。

レコードの音をUSBメモリーに録音する

レコードプレーヤーの音を USB メモリーに録音して、楽しむことができます。

1. 操作部上部にあるUSB端子にUSBメモリーを取り付ける

詳しくは「USBメモリー・MP3について」（→4ページ）もお読みください。

2. レコードを聴く(→10ページ～)手順に沿ってレコードを再生をする

PHONO/AUX ランプが緑色に点灯します。

3. 操作部のPHONO-RECボタンを押すと録音が開始される

録音が開始されると、PHONO-AUX ランプが点滅に変わります。

- USBメモリー上に「RECORD」フォルダが作成され、その中に録音したデータが保存されます。
- 録音フォーマット mp3、サンプリング周波数 48kHz、ビットレート 160kbps で録音されます。

4. 録音を終了するには、PHONO-RECボタンを押す

オートリターン機能などでトーンアームが元の位置に戻ると、録音が自動的に終了します。

- 本機には自動的に曲番号を付けたり、曲を切り分けたりする機能はありません。
  音の切れ目など関係なく録音開始から終了までが 1 ファイルとして録音されます。

⚠注意	**PHONO/AUX ランプ点灯・点滅中に USB メモリーを取りはずさない。** 特に点滅中は書き込み途中であることを示すため、書き込み途中で USB メモリーを取りはずすと、録音されたデータが壊れたり、USB メモリーが故障する原因となります。

お手入れのしかた

⚠注意	• お手入れするときは電源を切り、AC アダプターをコンセントから抜く。 • お手入れするときは、針などに影響のないようにスタイラスカバーを取り付け、アームも固定具で止めておく。 そのままお手入れするとカートリッジ（針）が使えなくなる原因となります。

ドライブベルトの交換

本機はターンテーブルをベルトドライブ方式で回転させているため、長時間使用しているとドライブベルトが伸びたり劣化してきます。
定期的にターンテーブルをはずして点検・清掃し、ドライブベルトの状態を確認して、必要なときにドライブベルトの交換をしてください。

ターンテーブルの取りはずし

1. **ターンテーブルからターンテーブルシートをはずす**
2. **ターンテーブルの外周にある2つの大きな穴のどちらかを右上のモーターのプーリーのある場所に合わせる**

   右図のように内部のドライブベルトが見えます。
3. **ドライブベルトを指で外側に押さえ、そのままターンテーブルをつかむようにしてターンテーブルを持ち上げる**

   ターンテーブル内周にある 2 つの丸い穴を別の手でつかみ、まっすぐ垂直に持ち上げると、そのままターンテーブルを取りはずすことができます。

⚠注意	**ターンテーブルを取りはずしたときに、内部の部品などに触れないようにする。** 故障の原因となります。

ドライブベルトのチェック

1. **ドライブベルトに切れや薄くなっているところなどがないか、ターンテーブルの裏の内側円周部にドライブベルトを取り付けたときにゆるくないかを調べる**

   取り付けられているドライブベルトが劣化していたり、切れたりしたときは下記のパーツに交換してください。

交換用ドライブベルト

商品名 : ターンテーブル用ドライブベルト（1本） 型番 : SCB-58

※ 別売品のお買い求めは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
※ 本機の交換用ドライブベルトは、二つ折りにした長さ29cmタイプ(円周58cm)です。

お手入れのしかた（つづき）

ターンテーブルの取り付け

1. ターンテーブルの裏の内側円周部にドライブベルトを取り付ける

   ドライブベルトは途中にねじれや反転している部分がないようにしてください。

2. 取りはずすときと逆の手順でターンテーブルを本体に取り付ける

3. ドライブベルトをモーターのプーリーにかける

4. ターンテーブルを時計回りに10回ほど回す

   ベルトがモーターのプーリーからはずれたり、よじれたりしないか確認してください。

5. ターンテーブルにターンテーブルシートを取り付ける

レコード針の交換

本機のレコード針はサファイヤ針です。耐久時間はご使用されるレコードの状態にも左右されますが約 15 ～ 30 時間です。
レコード再生時に音割れやノイズが出てきた場合は当社指定の交換針に取り換えてください。

レコード針の取りはずしかた

1. **カートリッジ部の赤い部分（レコード針）の前部を小さなマイナスドライバーなどで下に押し下げる**
   素手で取りはずすこともできます。
2. **レコード針をカートリッジ本体から下に引き抜き取りはずす**
   素手で難しいときは、ラジオペンチなどで慎重に引き抜いてください。
3. **新しい交換針をカートリッジの後部分を先に取り付け、交換針の前部を上に押し上げはめ込む**
   パチンと音がするまではめ込んでください。

⚠注意	**交換するときにレコードと接触する部分には絶対に触れないように注意する。** 針がゆがんだような状態で使用すると、レコードを傷つける原因となります。

交換用レコード針

商品名 : サファイヤ針（2 本セット） 型番 : SCL-12P

※ 別売品のお買い求めは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

お手入れのしかた（つづき）

⚠警告	**お手入れの際は、必ずACアダプターをコンセントから抜く。** 感電・火災・けがの原因になります。

本体のお手入れ

本体の汚れは、ぬるま湯か食器用洗剤（柑橘系を除く）に浸してかたくしぼった柔らかい布で拭き取り、さらに乾いた布でやさしく乾拭きをしてください（樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります）。

⚠注意	• **ベンジン・シンナーでは拭かない。** 変色や変形の原因になります。 • **化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従って使用する。** 変色・キズの原因になります。 • **本体に水をかけたりしない** 感電・故障の原因になります。

レコード針のお手入れ

柔らかいブラシなどで奥から手前に優しくブラッシングをしてください。
固いブラシや布でこすったり、ベンジンなどの溶液で拭いたりすると破損したり劣化の原因となります。

レコードのお手入れ

レコードにほこりや指紋、皮脂汚れなどがあると正しく再生されないばかりか、レコード針を痛める原因にもなります。
柔らかい布での乾拭きや市販のレコードクリーナーなどでクリーニングしてから再生するようにしてください。

※市販レコードクリーナーの取扱説明書を必ずご確認ください。

※レコードについて詳しくは「レコードの取り扱いについて」（→４ページ）もお読みください。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告	**修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。**

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
共通部		
電源が入らない	• AC アダプターがコンセントからはずれている	AC アダプターをコンセントに奥まできちんと接続する
	• DC プラグが本体の DC ジャックからはずれている	DCプラグをDCジャックに奥まできちんと接続する
スピーカーから音が出ない	• 目的のモードに設定されていない	正しくモードを切り換える
	• ヘッドホン端子にヘッドホンまたはイヤホンが接続されている	ヘッドホンまたはイヤホンを取りはずす
	• 音量が最小になっている	音量つまみを回して音量を調節してください
雑音が入る	• 近くで電波など発する機器（携帯電話、電子レンジなど）を使用している	電波など発する機器から離す、もしくは電波など発する機器の電源を切る
操作をしても正常な動作をしない		一度電源を抜いて接続しなおす
ヘッドホン端子にヘッドホンを接続しても正しく聴こえない	• ヘッドホンのミニプラグが奥まで差し込まれていない	ミニプラグを奥まできちんと差し込む
	• 4極以上のミニプラグのヘッドホンを使用している（4極以上のミニプラグは正しく使用できないことがあります）	3極のミニプラグヘッドホンを使用してみる、または変換プラグなど使用してみる
レコード部		
演奏が始まらない	• トーンアームが下ろされていない	アームリフターレバーを操作してトーンアームを下ろす
音がとぶ・ノイズが多い	• 本体下に振動がある	振動のない場所に置く
	• レコード針が汚れている	レコード針の汚れをとる
	• レコードが汚れている	レコードの汚れをとる
	• レコードにキズがある	レコードの修復を依頼する
	• 音量を大きくしすぎている	音量を小さくする
ターンテーブルの回らない・回りかたがおかしい	• ドライブベルトが切れている、ドライブベルトがはずれている、ドライブベルトが劣化している、ドライブベルトの取り付けがおかしい	ターンテーブルをはずしてドライブベルトを確認してみる（必要に応じて交換）
オートリターンしない	• レコードの状態による	レコードの状態によってはオートリターンに対応しない場合があります。その場合はアームリフトレバーを操作して手動でトーンアームを元の位置に戻す
アームリフターレバーで針を落とすと失敗する	• レコードの状態による	手動で音溝を確認してゆっくりとトーンアームをのせる
音がおかしい	• ターンテーブルシートをのせていない	ターンテーブルシートをのせたうえでレコードをのせる
	• レコードを２枚重ねていている	レコードをのせるのは１枚にする
	• レコード針が摩耗している	レコード針を交換する
音程がおかしい	• 回転数が合っていない	再生するレコードに合わせて回転数セレクターを切り換える
		ピッチコントロールつまみで回転数を微調節する

▶▶つぎのページにつづく▶▶

修理・サービスを依頼する前に（つづき）

症状	主な原因	処置
USB メモリー		
USB メモリーが認識されない	• USB メモリーが FAT32 以外の形式でフォーマットされている	USB メモリーのフォーマットを確認し、FAT32 でフォーマットしなおす
	• ハブなどを使用して接続している	本機の USB 端子に直接取り付ける
演奏が始まらない	• ファイルが MP3 ファイルではない	本機は拡張子が「.mp3」、「.MP3」の MP3 ファイルのみ再生できます
	• ファイルが著作権保護されている	本機は DRM（デジタル著作権管理）付きファイルに対応していません
録音ができない	• USB メモリーの空き容量がない	USB メモリー内の不要なデータを削除してください

Bluetooth 部		
外部機器が接続できない	• 他の外部機器が先に接続されている	本機は1台しか接続できないため、接続されている機器の接続をはずす
	• 外部機器が設定モードになっていない	外部機器の取扱説明書を確認して正しく接続をする
音が出ないまたは小さい	• 外部機器の音声出力レベルが小さい	外部機器の音声出力レベルを上げる
	• ワンセグなどコンテンツ保護された音声を再生している	本機は SCMS-T 方式のコンテンツ保護に対応していません

長年ご使用のレコードプレーヤーはよく点検を

このような症状はありませんか？

- 電源コードや AC アダプター、DC プラグが異常に熱い。
- コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- こげ臭い匂いがする。
- その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから AC アダプターを抜いて、必ず販売店またはドウシシャ福井 A&V サービスセンターに点検をご相談ください。

主な仕様

仕　　様

アンプ部

定格出力（THD:10%）	3.5 W +3.5 W
再生周波数帯域	100Hz ～ 15kHz

レコードプレーヤー部

モーター	ＤＣモーター
ドライブ方式	ベルトドライブ
ターンテーブルスピード	33 1/3　45 rpm (ピッチコントロール ±10%)
カートリッジ	セラミック圧電方式（ステレオ）
レコード針	サファイヤ針（SCL-12P）

USB 部

再生可能フォーマット	MP3（拡張子 .mp3 .MP3）
録音フォーマット	MP3
録音サンプリング周波数	48kHz
録音ビットレート	160 kbps

スピーカー部

サイズ	サテライト 和紙素材使用 W-RPM 5cm フルレンジスピーカー ×2
	パッシブラジエーター 7.0cm
インピーダンス	6 Ω
定格入力	5 W

Bluetooth 部

バージョン	Ver.3.0
クラス	Class2
対応プロファイル	A2DP
対応コーデック	SBC
SCMS-T	非対応
通信距離	（見通し）約 10 m *
同時接続台数	1 台
記憶可能ペアリング台数	1 台

※通信距離は目安です。周囲の環境により距離が変わることがあります。
本機は SCMS-T 規格に対応していません。お使いの Bluetooth 機器によっては接続できない場合があります。
詳しくはお使いの Bluetooth 機器の取扱説明書をご確認ください。

基本仕様

音声入力端子	AUX 3.5mm ステレオ入力
音声出力端子	RCA ステレオ　× 1 系統
	3.5mm ステレオヘッドホン端子
外形サイズ	(約) 幅 45 ×高さ 18 ×奥行 39 cm（ダストカバー突起物を含む）
質量	約 5.0kg（本体のみ）
電源	AC100V 50/60 Hz　DC9V（専用 AC アダプター使用）
消費電力	動作時 10W（待機時 0.5W）

- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
  (This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

MEMO

MEMO